

iシェアーズ 月次ETF*資金流入レポート



渡邊 雅史
ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されています。その規模は2兆ドル（約200兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見てくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2013年11月のETF資金流入 ～続く先進国株式へのフロー～

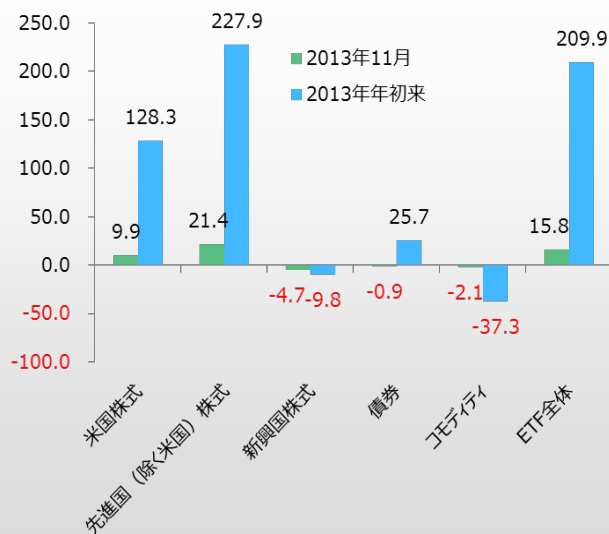
2013年11月の資金フローは、158億ドル（約1.6兆円）の流入となりました。

米国の強い景気指標やFRB（米連邦準備理事会）のイレレン副議長による緩和長期化発言などから先進国株式への流入が継続しました。一方で、新興国の株式からは流出となり、資金は先進国に流れている模様です。また、ECB（欧州中央銀行）の利下げやドイツの連立政権樹立などの欧州のイベントによって、米国株式だけでなく、欧州全体や米国を除く先進国の株式などに投資するETFへの資金流入も目立ちました。

一方で、債券のETFに関しては、物価連動債やエマージング債券からの流出がハイールド債券への流入を相殺した形になりました。このことから、世界の投資家は引き続き短期の債券ETFへ興味を示しており、また、今後の金利上昇リスクに対して投資家が備えていることを示していると考えられます。

また、今後の金利上昇懸念が金ETC (Exchange Traded Commodities)からの流出を継続させています。金のETFからの資金流出は、年初来364億ドル（約3.6兆円）に達しています。

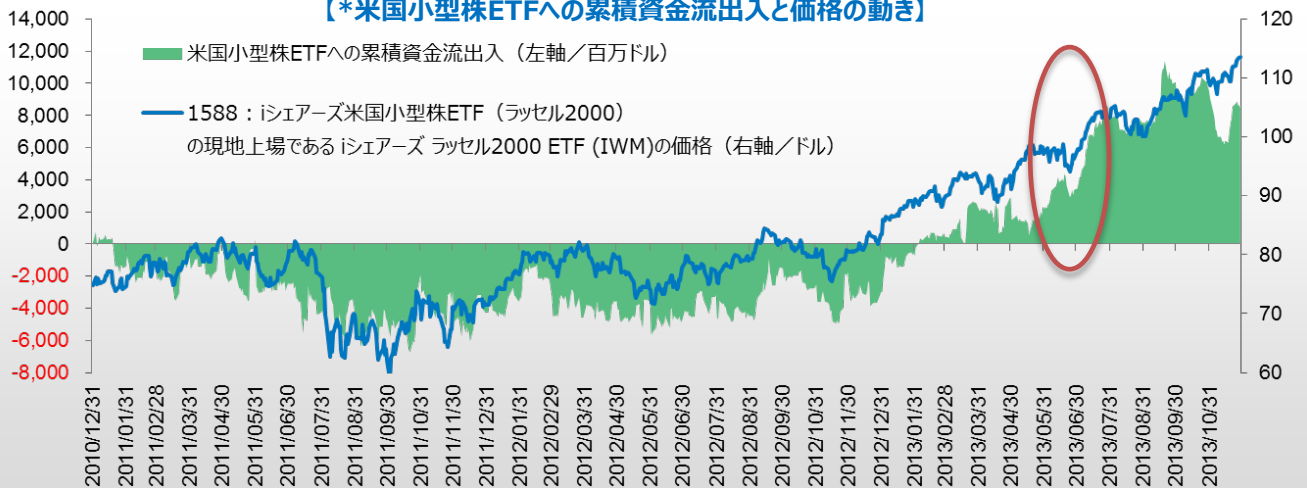
【世界のETFの資金流入（十億ドル）】



出所：ETP Landscape Nov 2013, BlackRock

ETFから見る世界の投資家動向 ～米国小型株への資金流入～

【*米国小型株ETFへの累積資金流入と価格の動き】



*全てのiShares及び10億ドル以上の残高のあるその他のETF（レバレッジ・インバース型を除く）のうち米国小型株に特化したものについてブラックロック・ジャパンがデータを集計したもの

出所：ブラックロック・ジャパン、ブルームバーグ

主に米国株ETFを中心として、資金流入の動きが大きく変化するのが2013年5月でした。2013年の前半は低金利環境下で「インカム」を求める投資家が高配当株式への投資を活発に行った結果、高配当株式やそれに連動するETFへの資金流入が目立っていました。しかし、5月に米国の量的緩和終了懸念とそれに伴う金利の上昇懸念が高まると、世界の投資家の中には、よりリスクをとって、経済の成長を享受できるような投資戦略への切り替えを実施する動きがみられました。その結果、資金流入の対象となったのが米国の小型株でした。小型株への流入は5月に大きく増え、その後も流入が継続しました。一方で、同時期の高配当株式への資金流入はほぼ横ばいとなり、投資家が、低金利環境下での投資戦略から金利上昇局面への投資戦略へと変化した様子が伺えます。米国全体のETFの資金流入は継続しているものの、足元でも米国の量的緩和政策をめぐる思惑から、資金流入の詳細を見ると世界の投資家がその投資スタイルを機動的に変えている様子が伺えます。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。また、中小企業への投資では、一般に変動が大きくなります。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数料は取扱金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiSharesのウェブサイト（<http://jp.ishares.com/>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

ブラックロック・ジャパン株式会社